

次号予告

特集	進行性筋ジストロフィー	
	進行性筋ジストロフィー研究、	
	最近の進歩……………国立神経センター	杉田秀夫
	成人進行性筋ジストロフィー患者へ	
	の作業療法……………埼玉医科大学病院	遠藤てる
	在宅 Duchenne 型ジストロフィー児の障害変化へ	
	の対応法（生活機器導入を中心に）	
	……………東京都心身障センター	大津慶子
	日本筋ジストロフィー協会の活動……………協会長	古島常男
	進行性筋ジストロフィー症児の課題……………国立特殊教育研	永峯博
	移動を念頭に置いた筋ジストロフィー患者の問題	
	（一患者の体験と感想）……………	石坂直行
とびら	ニューメディアの社会……………大阪府済生会中津病院	首藤茂香
講座	心理学シリーズⅡ、	
	知覚と認知 5. 認知の障害……………東大	河内十郎
	社会リハビリテーション	
	5. 障害者をとりまく家族、社会、文化的環境	
	……………国学院大	山田明
プログレス	神経心理学の最近の進歩……………東京都神経科学研	杉下守弘
あてな	国際リハビリテーション協会について	
	……………日本障害者リハビリ協会	中島和
資料	第19回 PT・OT 国家試験問題一模範解答（Ⅵ）	

編集後記

障害児（特に肢体不自由児）教育の現状と展望の特集を組みました。「高木憲次一人と業績」によると、肢体不自由児なる名称を高木博士が提唱したのは、昭和3～4年頃であるという。また、昭和7年の光明学校の誕生に対しては、「……私の希望する学校と病院を兼ねた教養所はついに受け入れられなかった。当時の空気としては、治療すると子供が怖がるだろうということで、医療の介入を危惧する向きが強く、……（光明学校へ派遣した）兩人も校医の域を脱しきることが出来ない」と述べています。

養護学校の義務化は昭和54年に実現しました。その意味では、本号で高松論文が指摘したように、肢体不自由児に関しては医療・福祉が先行し、教育は制度的には二の次であったのかもしれませんが。高木博士の療育の理念を実現すべき舞台が50年かかって整備されたともいえましょう。医療と教育の担当者が協力して、見ごたえのある

ドラマを展開するのに、長い目で見れば、あと50年かかるのかもしれませんが。主役のとり合いでなく、子どものニーズによって、主役にも名脇役にもなれるだけの実力を、医療と教育の担当者それぞれがつけられない限り、ドラマはしり切れとんぼになり、黒田論文が指摘するような「ある日突然に」の、事態が生じてしまうのかもしれませんが。

ここ数年間、門外漢の私にすらよく聞かえてくる〇〇法、〇〇療法は、この療育という壮大なドラマの一体どこに位置づけられているのだろうかという疑問が湧いてきました。何やら舞台のごく一部にだけ、照明があたっていて、障害児の療育という全体ドラマの流れや方向が、やや見えにくくなっている時代なのかもしれません。治療と教育と福祉が21世紀へ向けてどのような統合されていくのか、今後の展開が楽しみです。

（富岡 詔子）

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
埼玉県障害者リハビリセ
ンター所長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビ
リセンター病院長

（五十音順、以下同じ）

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

萩 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
都心身障害者センター

富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

池 松 洋 子
伊 東 元

岩 崎 テル子
宇都宮 初 夫

金 子 誠 喜
鎌 倉 矩 子

木 村 信 子
菊 地 延 子

小 嶋 裕
斎 藤 みち子

高 橋 正 明
田 口 順 子

橋 元 隆
古 川 宏

松 沢 博
宮 崎 和 子

宮 前 珠 子
山 田 貞 雄

矢 谷 令 子

（担当 細田・西塚）